あゆみ
青梅市立河辺小学校　学校便り
No.674　令和６年３月１日
青梅市立河辺小学校

ふるさと「青梅」への想いを高める　～青梅マラソン～

２月１８日には青梅マラソンが開催されました。今年も３０km の部と１０km の部を合わせて１万６千人の参加者が全国から集まり、盛大な大会となりました。
一般的に「マラソン」とは42.195ｋｍの距離で競われる競技を言いますが、青梅マラソンはその歴史の長さから、３０km でありながら「青梅マラソン」と呼ばれています。また、起伏に富んだコースで、「42.195km のマラソンを走るよりきつい」と言う選手の方も多くいます。ですから、一流ランナーがトレーニングや調整のために参加することも多くあり、今回の大会でも 2020 東京オリンピックの女子マラソン競技で８位入賞し、選考会である昨年１０月のＭＧＣ（マラソングランドチャンピオンシップ）でも２位に入り今夏のパリオリンピック女子マラソン代表に２大会連続で選出された一山麻緒選手や、同じくＭＧＣで２位となりパリオリンピック男子マラソンの出場が内定した赤崎　暁選手など、今まさに全盛期を迎えている一流ランナーが出場し、素晴らしい走りを見せてくれました。（両選手は、それぞれ女子の部・男子の部で優勝を果たしました。）ぜひ、今夏のオリンピックでは、「青梅を駆け抜けた選手」が大活躍することを期待したいものです。

青梅マラソンンは、毎年著名人がスターターを務めています。今年のスターターはプロ野球読売ジャイアンツで選手・監督として活躍された原　辰徳さんでした。また、近年の大会では 2000 年シドニーオリンピック女子マラソン金メダリストで現在もスポーツキャスターやマラソンの普及活動で活躍されている高橋尚子さんが毎年参加してくださり、トークショーやレース当日の応援ランナーを務めてくださっています。

青梅マラソンの第１回大会は１９６７年。それまでは一般の人が参加できるマラソン大会は日本にはありませんでした。ですから、青梅マラソンは「日本初の市民マラソン」と言われています。近年、「マラソンブーム」と言われ、東京マラソンをはじめ、日本各地にたくさんの市民マラソンができましたが、青梅マラソンはその先駆けと言える存在です。
私は出張で都内各所の学校や、時には他県の先生方とお会いする機会がありますが、「青梅市立河辺小学校の校長を務めています」と自己紹介をすると、「青梅マラソンの会場ですね。参加したことあります。」「青梅と言えば青梅マラソンの街ですね。」と返してくださる方が多くいます。そこから話題が広がり、よいコミュニケーションにつながるきっかけとなることもあります。青梅マラソンのことを話題にされると、何となくうれしいような、誇らしい気持ちになります。

本校では「青梅学」といって、青梅市の自然・環境・文化・人材・行事・歴史などを教材化して学ぶ活動を推進しています。青梅マラソンはまさに「青梅」「河辺」の「ビックイベント」であり大きな特色です。同日開催のジュニアロードレースにも、多くの子供たちが参加してくれました。（6年男子では傳田　唯翔君が優勝！6年女子では筧　陽彩さんが第2位、河口　歩陽さんが第3位と素晴らしい活躍でした！）子供たちが沿道で応援したり、大会の雰囲気を楽しんだりする姿も多く見かけました。盛会の大会を「見て、参加して、感じて」ふるさと「青梅」への想いを高める機会となってくれていればとてもうれしく思います。
保護者の皆様の中にも、選手として参加した方や、役員・ボランティアとして大会を支えてくださった方、沿道等で応援し大会を盛り上げてくださった方も多くいらっしゃると思います。お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。